

本 会 記 事

○月例会 報告

(7月19日, 於 船舶振興ビル, 出席者56名)

「シミュレーションおよびその他」のタイトルで, 森口繁一氏(東大)が, 去る6月米国で開かれた「連統系の計数型模擬」のシンポジウムと, 帰途見学した Purdue, UCSD, UC Berkeley の3大学について帰国報告を行なった。

(8月22日, 於 船舶振興ビル, 出席者64名)

帰省中の室賀三郎氏(イリノイ大学)が「Computer Science ならびにイリアックIV」についての報告を行なった。なお, 講演終了後, 幹事その他有志数名が同氏を囲み懇談した。

○研究委員会報告

SC 研究委員会

(第24回, 41年7月21日(木) 於 電子協会議室, 出席者14名)

(1) 41年度の事業計画について, 大野委員長

(2) 40年度の事業報告と電子協主催の報告会(8月19日に予定)で行なうことについて, 大野委員長

(3) Time-Sharing システムについての WG でこれまでに調査した文献の紹介を下記のように行なった。

(i) OPS-1 について 安氏(日電)

(ii) MAC-Technical Report-16 (CTSS Technical Notes) について 阪田氏(三菱電機)

(iii) MAC-Technical Report-17 (Time-Sharing on a Multiconsole Computer) 安部氏(日立)

EDPS 研究会

(7月13日, 於 ユニバック計算センター, 出席者7名)

4月例会での報告のつづきとして, U-1107 中央演算装置の各レジスタ相互間の情報の流れ, および入力プログラミングにおける基本的ロジックについて, 高本修氏(NRU)が説明した。

U-1107 では128語の addressable な thin film memory をアキュムレータ, インデクス・レジスタなどを利用している点が一つの大きな特色であるが, これとは別に128語の thin film memory を scratch pad として使っている点が注目された。

U-1107 における入出力は大体つぎの手順にしたがう。

(1) まず特殊な出力命令によって1~数語の function word をデータの形で(すなわち Output Access Control Word によって)入出力機器に送る, (2) 入出力機器が function word を解読する, (3) I/O Access Control Word (いわゆる I/O コマンドのようなもの)によって実際のデータの入出力を行なう, (4) 終了すると interrupt が生ずる。

U-1107 では I/O Access Control Word の chaining ができないことが注目された。

COBOL 研究会

(7月13日, 於 ユニバック計算センター, 出席者8名)

(1) COBOL 開発状況の調査 全員により, 前回の調査以来 FACOM, NEAC, TOSBAC, MELCOM について, さらに明らかになった事項を検討した。

(2) UNIVAC-III COBOL Compilation の見学 UNIVAC-III COBOL は, Computer Sciences Corp. によって開発されたいわゆる Los Angeles Package と呼ばれる Operating System 中のコンパイラである。前田氏(NRU)の案内により COBOL ソース・プログラム・デック(90 欄カード)の読みから, オブジェクト・プログラムのプリントまでの過程を見学した。

この COBOL コンパイラの各過程は BOSS というコントロール・プログラムによって制御されている。

(3) COBOL Confidential

今までに何回か持ち出された文法上の問題点をまとめた。それらのうちかなりの部分は, 今度出た COBOL Edition 1965 において明確な定義を与えられていることがわかった。

関 西 支 部

○研究会報告

システム・ソルビング研究会

(7月27日(水)18:00~ 於 生産性関西地方本部会義室 出席者10名)

Computers and Thought, Part 1-Section 5 Inferential Memory as the Basis of Machines which Understand Natural Language について, 輪読と討議をおこなった。報告者 竹嶋徳明(住友化学)